

コンクラーベ

2025. 5. 1

ローマ教皇、フランシスコ教皇が亡くなった。88歳だった。カトリックの最高指導者であり、世界最小の国であるバチカン市国の元首でもある。異国の話ではある。だが、ローマ教皇という存在は、私にとって身近とまでは言わないが、親近感を覚えるものとなっている。

ローマ教皇のような権威、権力、発言力、影響力をもつ人物が、世界に何人いるかはわからない。そのような人物にお会いしたこともない。だが、唯一、あと数メートルという距離まで近づくことができたのがローマ教皇だった。

なぜ、私のような普通の日本人が、そんなことをすることができたのか。時は遡り、西暦2000年を迎えるときのことだった。我が家は、その歴史的な出来事を迎えるというときに、ちょうどイタリアのローマに住んでいた。バチカン市国は、ローマ市内にある。そこは、カトリックの総本山である。すなわち、ローマ教皇がいらっしゃる。

2000年になるというタイミングで、バチカン市国にあるサン・ピエトロ大聖堂でミサが行われた。どういった経緯かは忘れてしまったが、なぜか我が家に、そのミサに参加できるチケットがまわってきた。信者でもない自分が参加できるものなのか。このチケットは本物なのか。いくつかの疑問があった。それでも、1000年に一度のことである。とりあえず、行ってみることにした。

時間は夜中である。一人で行くことにした。意外と、スイスイと進める。あれよあれよという間に、教皇様が見える位置まで来てしまった。思ったよりも距離が近い。よくわからないままに、ミサに参加した。すべてが夢うつつだった。よく覚えてはいないが、無事に家に帰ることができた。

日曜日に、サン・ピエトロ大聖堂に行くことがあった。教皇様は、ベランダに出て気さくに手をふっていた。当時の教皇様は、歌も歌ってくれた。このようなことがあり、ローマ教皇に対しては、勝手に親近感をもっているわけである。

新しい教皇を選ぶ教皇選挙、コンクラーベが行われている。これは、バチカン宮殿内のシスティーナ礼拝堂で行われる。ここは、普段であれば、観光客が大勢訪れる場所である。ミケランジェロの有名な天井画があるところである。

以前であれば、投票を行う枢機卿たちは、システィーナ礼拝堂内に閉じ込められ、新教皇が選出されるまでは礼拝堂から出ることを禁じられていた。決まるまでは、出ることができない。根比べのようである。現在では、この方法は改められている。コンクラーベとは、ラテン語で“鍵がかかった”という意味である。次のローマ教皇にも、世界中から大きな期待が寄せられることだろう。